

2022年「第3回 高齢化に関する世界会議」を日本に招致しよう



2020年「第32回 東京オリンピック」とともに



2020年には、世界の若者たちが力を競うスポーツの祭典「第32回東京オリンピック」(The Games of the XXXII Olympiad)が開催される。それに向けて組織委員会が設置され、各界から選ばれた170人の顧問会議も決まって、一步を踏み出した。

それと重ねて、第1回(1982年・ウイーン)、第2回(2002年・マドリッド)に次ぐ2022年の「第3回 高齢化に関する世界会議」(World Assembly on Aging)を、「高齢化マラソン」のトップランナーである日本へ招致し開催しよう。

21世紀の国際的な潮流である「地球丸ごと高齢化」という課題を取り上げ、各国の政府関係者、専門家、経済人、報道人、NGO、市民の代表が一堂に会して、成果を共有し、将来構想を討議する機会とする。わが国の高齢者の知識と経験による「すべての世代のための高齢社会」達成への活動を公開しながら、世界から招いた優れた友人とともに、「国際平和と普遍的長寿社会」の証としての新たな構想を掲げることは、平和国家・長寿社会のリーダーとしてのわが国の責務であり、誇りうる歴史的事業である。

会議は「高齢者に関する国連五原則」にうたわれた「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」の精神を基調に、一人ひとりの高齢者のだれもがどこでも充実した人生を享受できるよう、新たな行動計画を練り上げることとなる。世代間・民族間・男女間の協調を実現する会議の成功は、「人類の平和的共存」の将来を明るいものにするだろう。

会場としてはアクセス、施設、これまでの活動経緯(参考：房総長寿社会憲章)などを考慮して、首都圏を候補地とする。

[会議名]

I 第3回「高齢化に関する世界会議」(World Assembly on Aging、WAA) 2022

- ・国内会議としての「高齢化に関する国内会議(都市と地方)」2016
- ・地域会議としての「高齢化に関する東アジア地域会議」2018

各国に取組事例に関する情報収集・リソースセンターの設置を要請

第3回WAAの中心議題を「高齢化と社会経済の革新」とする

II 「世界高齢者会議」—人類平和共存への道— 2018 2022

世界大戦後の「平和日本」を知る各界代表者および元大統領・首相・学者・宗教家ほか国際的な高齢者リーダーを招へいする(この会議は日本で継続して開催)

III 「世界高齢社会活動者会議」—すべての世代のために— 2022

NGOなど高齢社会活動の実践者・市民が地域の成果を語り合う

IV 2022年の本会議にむけた準備会議・地域会議など

<賛同者> WAAの理念と日本開催に賛同する著名人・活動者

<発起人幹事会・事務局> 「第3回高齢化に関する世界会議」の日本招致を進める会
(略称=WAA22招致の会)

後注1：関連年表

高齢化に関する世界会議（World Assembly on Aging、略称 WAA）等について （国連の動きと日本の動き）

- 1982年：** 第1回 WAA の開催（於 オーストリア・ウィーン）
・「高齢化に関する国際行動計画」採択（同年開催の第37回国連総会でも決議）
- 1990年：** 毎年10月1日を「国際高齢者デー」と定めることを決議（第45回国連総会）
- 1991年：** 「高齢者のための国連原則」を採択（第46回国連総会）
・「高齢化に関する国際行動計画」を18項目に集約、高齢者の「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」の実現を5原則として掲げる
- 1992年：** 1999年を「国際高齢者年」とする決議を採択（第47回国連総会）
・1995年には、高齢化が多分野、多世代に関係するなど多様な問題であることを考慮して、「すべての世代のための社会をめざして」をテーマとして採用
- 1995年：** 「高齢社会対策基本法」制定（日本）
- 1996年：** 「高齢社会対策大綱」策定（日本）
- 1997年：** 加盟各国にフォーカルポイントの設置を求める（第52回国連総会）
・日本のフォーカルポイント（窓口機関）は総務庁（後の内閣府）
- 1998年：** 国連が活力・多様性・助け合い・運動・発展をイメージしたロゴマークを発表
- 1999年：** 「国際高齢者年のフォローアップのための特別会議」開催（第54回国連総会）
・「高齢化に関する国際行動計画」改定のための第2回 WAA の開催を提案
- 2001年：** 「高齢社会対策大綱」の見直し（日本）
- 2002年：** 第2回 WAA の開催（スペイン・マドリード）
・「高齢化に関する国際行動計画2002」（以下、行動計画2002）の採択を決定
・政治宣言を発表
- 2011年：** 高齢化作業部会の設置と第1回実質会合（日本からは木村国連代表部公使）
- 2012年：** 「高齢社会対策大綱」の見直し（日本）
- 2012年：** 第2回 WAA のフォローアップ会議
・A/RES/67/143 を決議
- 2012年：** 10月1日「国際高齢者デー」に国連人口基金（UNFPA）のパパトゥンデ・オショティメイン事務局長は、「21世紀の高齢化：祝福すべき成果と直面する課題」（報告書）を、世界で最も高齢化が進んでいる日本を選んで発表
- 2013年：** 高齢化作業部会第4回実質会合（日本からは春木彰子書記官）
高齢者が自身の能力を社会を支えるために活かす視点も必要であると訴える
- 2016年（？）：** 国内会議としての「高齢化に関する国内会議（都市と地方）」
- 2018年（？）：** 地域会議としての「高齢化に関する東アジア地域会議」
- 2022年（？）：** 第3回 WAA の開催（日本）

後注2：関連資料

房総長寿社会憲章

長寿の時代を迎え、生涯にわたって生きがいとやすらぎのある人生をおくることは、私たち県民すべての願いです。

豊かな長寿社会を築くためには、一人ひとりが人間として尊ばれるとともに、家庭や地域社会でそれぞれの役割を担い、ともにいつくしみ、愛情あふれる社会を実現していくことが必要です。

私たちのふるさと房総の地は、温暖な気候、青い海そして豊かな緑に囲まれ、長寿のための自然環境に恵まれています。

さらに社会環境も着々と整い、空と海とを通じ世界に、そして輝かしい未来に向かい大きく飛躍しようとしています。

私たちは、ここに、豊かで、いきいきと活力ある長寿社会を築くことをめざして、房総長寿社会憲章を定めます。

1. 房総の青い海と豊かな緑のもと、こころとからだを健やかにし、県民の総和による長寿のふるさとづくりに参加しよう
2. お互いの知識や経験をいかし、よりよい社会づくりに努めよう
3. 生涯にわたって自らの可能性を高め、生きがいあふれる暮らしを創造しよう
4. 風土のかおりを大切に、人と自然とが調和したうるおいとやすらぎのあるふるさとをつくろう
5. 家族のきずなを大切に、こころの通いあう温かい家庭を築こう
6. 地域の人々とのつながりや世代間の交流を深め、ふれあいと支えあいのある地域社会をつくろう
7. 未来に向かい、国際性豊かで活力のあるふるさとをつくろう

平成4年3月31日 制定 千葉県

<注>

平成4年（1992年）の制定ですから、2022年は「制定30年」に当たります。

↓

後注 3 : 関連情報

◎欧州連合 (EU) は 2012 年を「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めています <http://eumag.jp/feature/b0412/>

◎「アクティブエイジング」の考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回高齢化世界会議を受けて策定したレポートに詳しく記述されています

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

◎厚生労働省の「ASEAN アクティブエイジング」の地域会合情報です。日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出すこととなります

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

◎「高齢化に関する世界会議」の高齢化作業部会が 2011 年 4 月に設置され、その第 1 回実質会合の日本代表からのステートメントは以下の通り

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

◎第 4 回実質会合の春木彰子氏のステートメントは以下の通り。高齢者を常に弱者として捉える視点だけではなく、高齢者が自身の能力を社会を支えるために活かす動機づけの視点も必要であることを同時に訴えています

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

◎国立長寿医療研究センターと日経 BP が共催している「アジアエイジングサミット」の 2013 年開催の内容は下記サイトの通りです。2011 年から毎年開催しています。

<http://www.nikkeibp.co.jp/aging/summit/2013/>

◎「国際高齢者デー」である 2012 年 10 月 1 日、国連人口基金 (UNFPA) およびヘルプエイジ・インターナショナルによって発表された報告書、「21 世紀の高齢化：祝福すべき成果と直面する課題」Ageing in the Twenty-First Century: A Celebration and A Challenge

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

◎PRESS RELEASE 01 October 2012

Population of Over-60-Year-Olds to Reach One Billion within the Decade

Report calls for urgent action by governments to address the needs of the 'greying generation'

<http://www.unfpa.org/public/home/news/pid/12232>

◎厚生労働省の国際的な Active Ageing に関する検討会の報告書

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041697.html>

◎国連の高齢化に関する最新のデータ

<http://www.un.org/en/development/desa/population/publications/ageing/WorldPopulationAgeing2013.shtml>

◎JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウム「高齢化社会と途上国における国境を越えた人の移動と開発」を開催

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616